

今年度もアンケートに多数の方がご協力くださり、お忙しい中お時間を頂戴しまして、誠にありがとうございます<(_ _)>

皆様から頂きましたご意見を、より良い支援を行うために役立たせていただきたいと思っております。

「どちらともいえない」や「いいえ」といった意見を頂いた中から、野花ではどのように取り組んでいるのかをご説明させていただきます。

① 『活動スペースがもう少しあるとうれしい』とのご意見を頂きました。

私たちも、「もっともっと広くできたらいいな・・・」と思うことがありますが、建物の床面積を増やすことは出来ないため、体育館や公園などを使って定期的に思いっきり広いところで体を動かせるように努めています。又、今後は法人内の他事業所の空き時間（土曜日など）にスペースを有効利用できるよう模索しています。

⑥【放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか】

このアンケートの設問は全て、厚生労働省が『保護者評価アンケート』用に作成したものです。

この設問に関しては、日本で長い間、自分たちと異なる者を社会の傍らにおいやって見ないふりをしてきた歴史を悔い、全ての子どもや成人が障がいの有無にかかわらず、垣根のない生活を送る権利があるというノーマライゼーションの立場から、出されているものであり、『差別や行動範囲の抑制は人の尊厳の保障に反する』と言う事です。子供も親も何処に住み、どこで教育を受け、どこで働くか、などを選択し決める権利があるからです。そんな福祉の精神を持った設問ではありますが、私たち子供に寄り添う現場の職員は長年この設問の言葉の表現に、すっきりしない思いを抱いてきました。

放課後児童クラブや児童館の職員やそこに通う子供たちが、デイとの交流を望むのか？訪問することで、『野花』の子ども達は楽しい思い出となるのか？

放課後児童クラブのスタッフが、一人で多くの子どもたちを見なくてはいけない現実を考えると、決して『ぜひ、遊びに来てください』といった状況ではないことは否定できないところです。また、あちらが引率して子供達を デイにつれてこられるか？と言う点も同じ理由で難しいと言わざるを得ません。

現在、子供たちは自由に行きたいところに行き、色々な公共の施設を利用し、外食に

行き、公園や遊戯施設を利用できる時代にいます。であれば、児童クラブ等との交流にこだわらず、社会に開かれた状態を保ち、子供たちが誇りをもって成長していけるような環境を作っていくことこそが重要ではないかと考えます。

野花の活動で行っている、スーパーやコンビニへのお買い物ツアーや、お出かけ、『とこフェス』今年から始めた『セントレアでの作品展示』などの地域との交流などを通してノーマライゼーションの達成を図っていきたいと考えております。

コロナ禍で制限も多いですが、出来ることを少しでも行っていきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

⑱『利用日数を増やしたいと思ったときにできないのが残念です』とのご意見を頂きました。

こちらに関しては、急なキャンセル等が出た場合などに、追加希望の方にはご連絡させて頂いていますが、なかなかご希望に添えない場合もあり心苦しく思っております。追加希望の方は、追加・変更希望の用紙にて記入提出いただくと助かります。

以上、頂きましたアンケート結果についてほんの少しの簡単なご説明ではありますが、少しでも、野花について知っていただける機会となりましたら幸いです。

野花は、保護者の方々に見守られ早10年の月日を迎えました。多くの子どもたちがこの10年の間に成長し、『とこっ子』を巣立っていく子も出てまいりました。来年度からは、とこっ子の児童部門を巣立っていく子どもたちのその後の進路として、成人部門も開設していきます。『住み慣れた場所で、0歳から100歳までの途切れのない支援を！』を目指していきたいと思っています。

現在の『とこっ子』があるのも、保護者の方々が暖かく見守り応援し続けてくださっているおかげです。本当にありがたい気持ちでいっぱいです。

茶話会や研修後や面談・送迎時にお話を聞かせていただけて、気づかせていただくことがたくさんあります。これからも職員一同、研鑽を続けていきますので、何卒宜しくお願い致します。

